

2015年(平成27年)5・6月号もくじ

# MMO TIMES

エムエムオータイムズ

Traffic Safety

- お客様の導入事例  
国交省の補助金を利用して機器を導入・・・(1)
- 特集記事 高齢者の交通事故  
認知機能の低下と事故対策・・・(2)
- NEWS  
オープン20周年記念イベントが開催されました  
三重県交通安全研修センター様・・・(2)

MMO新聞 [MMO TIMES]

マイクロメイト岡山株式会社 発行  
営業本部 岡山市北区奥田本町22-4 〒700-0932  
TEL 086-231-0900 FAX 086-226-0900 http://www.mmo-co.com/

## お客様の導入事例 国交省の補助金を利用して機器を導入

### 湘南鴨宮自動車学校様

神奈川県湘南鴨宮自動車学校様では、「交通安全教室講習会」の事業が認められ、歩行環境シミュレータ・視野診断計が導入された。

各機器について、歩行環境シミュレータは安全に道路横断体験をしながら、体験者の身体運動や動作のタイミングを測定して歩行能力や判断能力を確認できる機器である。また、視野診断計は、両眼・片眼それぞれでの位の範囲が見えているのかをチェックすることができる。



視野診断計



歩行環境シミュレータ

導入後すぐに、これから車やバイク等の運転者となる地元の高등학교の生徒約200名を対象とした交通安全教室が実施され、生徒達の中から、既に原付免許を取得している者を中心に代表者を選び、2種類の機器の体験を行った。

### 歩行環境シミュレータについて

では、高校生という若さもあり、横断中に事故に遭うケースはほとんど無かった。しかし、左右の確認時間が短いなど、正しく道路横断ができていない者は殆どいなかった。また、薄暮時の横断体験では、無灯火で走行している車両に気が付くのが遅れ、はねられそうになる、「ひやり」とした場面も見受けられた。

視野診断計については、片眼ずつ上下左右の視野計測を行い、特に問題のあるような結果は無かったが、「盲点」というものがあることを理解した。

最後に指導員によって総括が行われ、

- ・横断時は渡り終える直前(道路奥側)で跳ねられるケースが約70%。歩行者は左側、遠くからこちらへ向かってくる車に注意する必要がある。運転者の立場では走行中、右側から来る歩行者に注意する必要がある。
  - ・自動車は左側通行。道路横断時、奥側車線へ入る直前からしっかりと左を確認すること。
  - ・左右の確認時はただ首を振るだけではなく、片側につき約2秒ずつは確認しなければ、距離感や速度感を掴みにくい。
- 右のような、歩行者・運転者それぞれの立場に立ったコメントがあった。

### ファイブモータースクール様

埼玉県ファイブモータースクールの事業が認められマルチメディア紙芝居が導入された。

マルチメディア紙芝居は、多人数への教育の場において受講者がただ話を聞くだけでなく、反応キーと呼ばれる小型の機器を使用してクイズに答えることで参加意識を高めながら指導を行うことができる機器である。

導入後は、協賛団体として参加されている親子向けのイベントにて体験を行った。当日は交通安全クイズと称し、マルチメディア紙芝居を使用し、ドライバー向けの問題を用意し、運転免許を所持している大人を主な対象者として、合計50名の方が体験した。



クイズの実施中においては、インストラクターが参加者の選択した答えについて、なぜそう思ったのか、と問いかけるなど、クイズに答えるだけではなく、なぜ正しいのか・間違っているのかを体験者が正しく理解出来るよう進化した。参加者の中には、免許を取得したばかりの時には正しく覚えていたが、忘れてしまっていたルールを思い出した、という声もあった。

また、その翌日には市内の高등학교にて講習会を実施した。

講習会の最後に、運転免許をもつ先生方へ、安全運転が出来ているかを問いかける、という形でマルチメディア紙芝居を使用し、ドライバー向けの問題を代表者7名に出題した。



### あたご自動車学校様

長崎県のあたご自動車学校様では、「シニア・リーダー育成研修会」の事業が認められ、歩行環境シミュレータと運転・歩行能力診断が導入された。

運転・歩行能力診断は、もぐら叩きの要領で光るボタンを押していくだけの簡単な操作で、運転や歩行時に必要となる認知・動作能力や瞬時的な記憶能力をチェックすることができる機器である。

導入後すぐに、シニア・リーダー(高齢者がリーダーとなり、同じ高齢者へ交通安全教育を行う活動)として活動を行っている地域の高齢者を対象に、



研修会が行われた。

歩行環境シミュレータの体験では、ただ横断体験をするだけではなく、雨や雪などの気象条件のときに傘をさした状態での体験なども行った。傘をさす場合、写真のような傘を傾けた持ち方では周囲の状況の確認が難しく、危ないので、傘はなるべく傾けずに立てて持つこと等の指導もあった。

体験後には、次のような感想が寄せられた。

・屋内で安全に横断体験ができるのが良い。

・リプレイ機能により、事故に遭ってしまった原因を学ぶことができた。

運転・歩行能力診断については、機器の体験後には各自へ結果表が渡され、体験者からは自分ができる箇所・改善すべき箇所を知ることができた。などの声が上がった。



この記事で紹介した機器は、審査により認められた事業に対して補助金が交付される、国土交通省の安全運転推進事業への補助金制度を利用して導入されています。

補助金制度は今年度も実施が予定されています。

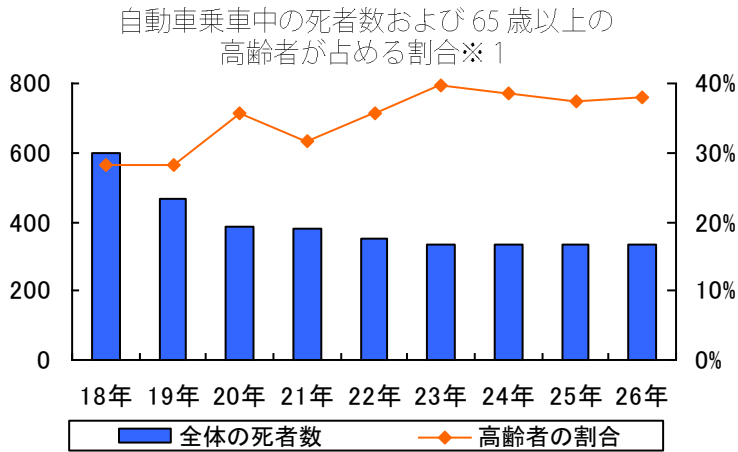
# 特集 高齢者の交通事故

## 認知機能の低下と事故対策

交通事故による死者の数は徐々に減少の傾向にあります。しかし、近年、高齢者の占める割合が増えていると言われています。これについては様々な原因が考えられますが、原因のひとつとして、進む高齢化が考えられます。今後、更に進むと言われている高齢社会に向け、いま、対策が急がれています。今回は高齢ドライバーの事故原因と対策について特集します。

### 増える高齢者の事故割合

近年、自動車乗車中の交通事故による死者の数は減少しつつある。しかし、交通事故による死者のうち、65歳以上の高齢者が占める割合は徐々に増えている。

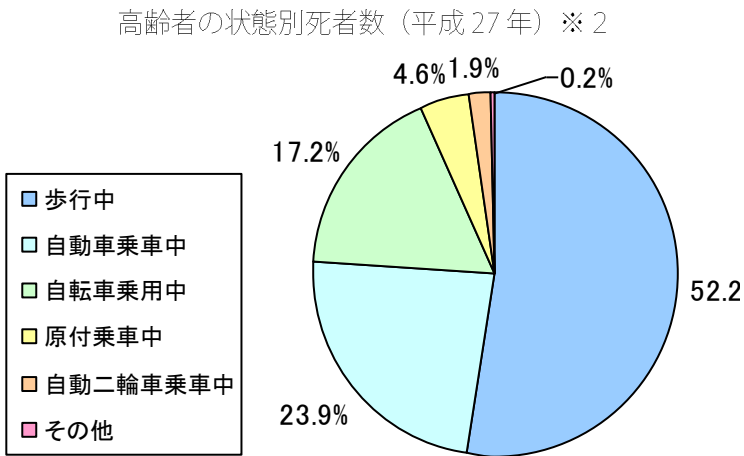


### 事故の状況は

右の表を見ると、全体の死者数は徐々に減少しつつあるが、高齢者の割合は徐々に増加していることがわかる。

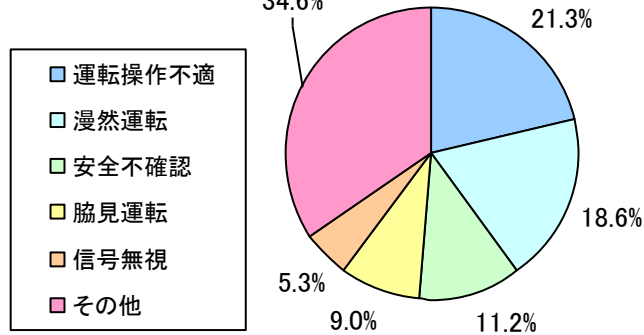
### 事故の状況は

次に、高齢ドライバーの法令違反別の死亡事故件数を見ると、最も多いのが運転操作不適(アクセル・ブレーキの踏み間違い等)、続いて漫然運転、安全不確認となっていることが分かる。(右下 グラフ)



どのような状況で発生しているのかについて調べてみた。次のグラフを見ると、歩行中が一番多く、ほぼ半数を占めていることが分かる。続いて、自動車乗車中、自転車乗用中とな

高齢者の状態別死者数(平成27年)※3



### 老化による身体の変化

警察庁が実施した、高齢ドライバーによる交通事故防止に関するアンケート(※4)では、自身の運転について、とっさの動作などがスムーズにできなくなったと感じるか?という項目に対して「感じる」・「やや感じる」と答えた者が約6割を超えている。

(75歳以上のみ回答)

人間の体は年齢を重ねると共に、体力の低下だけでなく、視力やとっさの判断力など、様々な機能が衰えると言われている。

その中でも、高齢者の7人に1人が患っているとされている認知症は、交通場面に限らず、社会全体での対策が

求められている。

### 高齢ドライバーへの対策は

現行は、75歳以上のドライバーに対しては免許の更新の際に高齢者講習に加え、講習予備検査が行われており、記憶力や判断力など、認知機能の確認を行っている。

もし記憶力・判断力が低下している(第1分類)という結果になった場合、過去1年間に規定の違反行為があれば、専門医の診断が行われる。そして認知症であると診断された場合、免許の取消又は停止の措置が取られる。

しかし、現行の制度では、記憶力や判断能力が低下しているという結果になっても、決められた期間内に違反行為を行っていないければ問題なく免許を継続することが出来る。

一方、現在検討されている改正案においては、講習予備検査の結果が第1分類になったドライバーに対して、過去の違反行為の有無に関わらず専門医の診断を義務付けるようになって

いる。さらに、免許の更新時以外の場合でも、認知機能が低下している場合に行われやすい違反行為を行ったドライバーに対して臨時認知機能検査を実施するよう予定されている。

### 参考

※1 13

警察庁HP 統計

交通事故統計(平成27年4月末)

を参考にグラフを作成

※4

警察庁HP

高齢運転者による交通事故防止に関するアンケートの実施について

## NEWS

### オープン二十周年記念イベントが開催されました

先日、三重県のセーフティプラザみえ(三重県交通安全研修センター)様にて、オープン20周年を記念し、交通安全フェスタが開催されました。



当日は、20周年記念の挨拶の後、名前が募集されていたキャラクターの名前も発表され、考案者には記念品が手渡されました。名前は三重県の「み」。守るの「まも」、見守るとい言葉から「みまも」と名付けられたそうです。



キャラクターの名前発表の後、交通安全フェスタとして、参加者それぞれが体験学習ゾーンの各種機器の体験をし、イベントの最後に屋外の研修施設にて、ダミー人形を使った衝突再現の見とり学習が行われました。



マルチメディア紙芝居



視野診断計



ダミー人形を使った衝突再現

### 編集後記

今回は高齢者の交通事故について、主にドライバーにスポットを当てて特集しました。高齢ドライバーについては、高齢者自身が自分の認知機能の低下を自覚していても、交通の手段が無いため、運転免許が必要、といった問題もあります。運転免許の制度だけでなく、車を運転しなくてもよい移動手段の確保など、社会全体で考える必要がある問題であると言えます。